TOPICS 1

トピックス…①

令和５年の新規就農者は前年対比で5.2%減少
－ 令和５年度新規就農者調査結果 －

農林水産省大臣官房統計部「令和５年新規就農者調査結果」によると、令和５年（令和５年２月１日～６年１月31日）の新規就農者は４万3,460人で前年に比べ5.2%減少した。就農形態別にみると、新規自営農業就農者は３万330人（3.4%）減、新規雇用就農者は9,300人（12.0%）減、新規参入者は3,830人（1.0%）減であった。

１．新規就農者数

令和５年（令和５年２月１日～６年１月31日）の新規就農者は４万3,460人で前年に比べ2,380人（5.2％）減少し、このうち49歳以下は１万5,890人で同980人（5.8％）減少した。

就農形態別にみると、新規就農者の69.8％を占める新規自営農業就農者は３万330 人で前年に比べ1,070人（3.4％）減少し、このうち49歳以下は6,420人で同80人（1.2％）減少した。また、同21.4％を占める新規雇用就農者は9,300 人で前年に比べて1,270人（12.0％）減少し、このうち49歳以下は6,880人で同830人（10.8％）減少した。さらに、同8.8％を占める新規参入者は3,830 人で前年に比べ40人（1.0％）減少し、このうち49歳以下は2,590人で同60人（2.3％）減少した（表１参照）。

なお、本調査における新規自営農業就農者とは、個人経営体の世帯員で、調査期日前１年間の生活の主な状態が、「学生」から「自営農業への従事が主」になった者及び「他に雇われて勤務が主」から「自営農業への従事が主」になった者をいう。

また、新規雇用就農者とは、調査期日前１年間に新たに法人等に常雇い（年間７か月以上）として雇用されることにより、農業に従事することとなった者（外国人技能実習生及び特定技能で受け入れた外国人並びに雇用される直前の就業状態が農業従事者であった場合を除く。）をいう。

さらに、新規参入者とは、土地や資金を独自に調達（相続・贈与等により親の農地を譲り受けた場合を除く。）し、調査期日前１年間に新たに農業経営を開始（「農業経営を開始」とは、「農業経営体」の定義に該当する事業を開始することをいう。）した経営の責任者及び共同経営者をいう。

２．新規自営農業就農者数

新規自営農業就農者数は、平成27年以降、ほぼ減少傾向にある。とくに、令和４年における60才以上の就農者数の減少は顕著であるが、令和５年度においても60才以上の就農者数の減少傾向（0.8％減）が継続している。これは企業の雇用延長が本格化してきたことが、影響（「他に雇われて勤務が主」から「自営農業への従事が主」になった者の減少）していることも考えられるのではないか（図１参照）。

令和５年度の新規自営農業就農者（３万330人）のうち、男性は２万1,630人、女性は8,700人で、前年に比べそれぞれ4.2％減、1.5％減であった。男女別の構成比は、男性が71.3％、女性が28.7％で、前年と比べそれぞれ0.6％ポイント減、0.6％ポイント増となっている（表２参照）。

３．新規雇用就農者数

新規雇用就農者は平成27年以降、１万人前後で増減を繰り返しており、これには太宗を占める49歳以下の動向が大きな影響を与えていると言える（図２参照）。

図１ 年齢別新規自営農業就農者数の推移

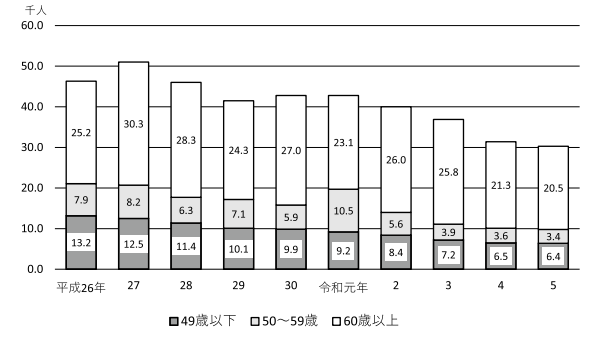

表１　就農形態別新規就農者数の推移（就農形態別）

単位：人

	計		就農形態別					
			新規自営農業就農者		新規雇用就農者		新規参入者	
		49歳以下		49歳以下		49歳以下		49歳以下
平成26年	57,650	21,860	46,340	13,240	7,650	5,960	3,660	2,650
27	65,030	23,030	51,020	12,530	10,430	7,980	3,570	2,520
28	60,150	22,050	46,040	11,410	10,680	8,170	3,440	2,470
29	55,670	20,760	41,520	10,090	10,520	7,960	3,640	2,710
30	55,810	19,290	42,750	9,870	9,820	7,060	3,240	2,360
令和元年	55,870	18,540	42,740	9,180	9,940	7,090	3,200	2,270
2	53,740	18,380	40,100	8,440	10,050	7,360	3,580	2,580
3	52,290	18,420	36,890	7,190	11,570	8,540	3,830	2,690
4	45,840	16,870	31,400	6,500	10,570	7,710	3,870	2,650
5	43,460	15,890	30,330	6,420	9,300	6,880	3,830	2,590

資料：農林水産省統計部「令和５年新規就農者調査結果」、以下同じ

表２　男女別新規自営農業就農者数

単位：人

	計	男女別	
		男	女
令和4年	31400	22570	8830
5	30330	21630	8700
増減率（%）	△ 3.4	△ 4.2	△ 1.5
構成比（%）			
令和4年	100.0	71.9	28.1
5	100.0	71.3	28.7

表３　男女別新規雇用就農者数

単位：人

	計	男女別	
		男	女
令和４年	10570	6910	3670
5	9300	6090	3210
増減率（%）	△ 12.0	△ 11.9	△ 12.5
構成比（%）			
令和4年	100.00	65.4	34.7
5	100.00	65.5	34.5

表４　男女別新規参入者数

単位：人

	計	男女別	
		男	女
令和4年	3870	3150	720
5	3830	3050	770
増減率（%）	△ 1.0	△ 3.2	6.9
構成比（%）			
令和4年	100.0	81.4	18.6
5	100.0	79.6	20.1

令和５年の新規雇用就農者（9,300人）のうち、男性は6,090人、女性は3,210人で、前年に比べそれぞれ11.9%減、12.5%減となっている。令和５年の男女別の構成比は、男性は65.5%、女性は34.5%で前年に比べて変化はほとんどなかった（表３参照）。

４．新規参入者数

新規参入者数は、3,500人前後で増減を繰り返しており、新規雇用就農者数と同じように、これには太宗を占める49歳以下の動向が比較的大きな影響を及ぼしていると言える（図３参照）。

令和５年の新規参入者は、3,830人で前年に比べ1.0%減少した。このうち男性は3,050人、女性は770人で、前年に比べそれぞれ3.2%減少、6.9%増加となっている。令和５年の男女別の構成比は、男性は79.6%、女性は20.1%で、前年に比べてそれぞれ1.8ポイント減、1.5ポイント増となっている（表４参照）。

新規参入者数を部門別にみると、露地野菜作が1,300人と最も多く、次いで果樹作が820人、施設野菜作が620人となっている。

また、肉用牛は60人で前年と比べ33.3%と大きく減少している一方で、酪農は30人で前年と比べ増減はなかった（表５参照）。なお、酪農分野の新規参入は30代～40代が約7割以上を占め、50代以上の新規参入者はいなかった（図４参照）。

注）「令和5年新規就農者調査」においては、令和6年度能登半島地震の影響により調査を実施出来なかった地域がある石川県では、下記の地域を除外した調査結果から算出している。

・新規自営農業就農者数：七尾市、輪島市、珠州市、志賀町、中能登町、穴水町、能登町

・新規参入者数　　：七尾市、輪島市、珠州市、志賀町、穴水町、能登町

図２ 年齢別新規雇用就農者数の推移

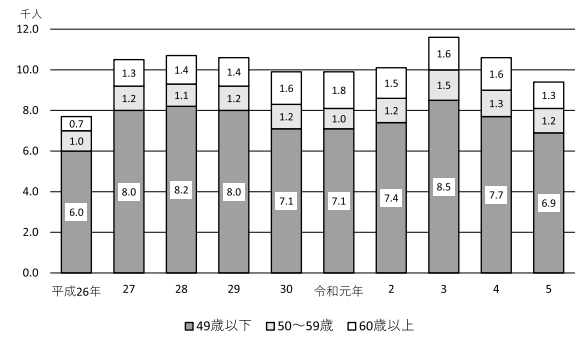

図３ 年齢別新規参入者数の推移

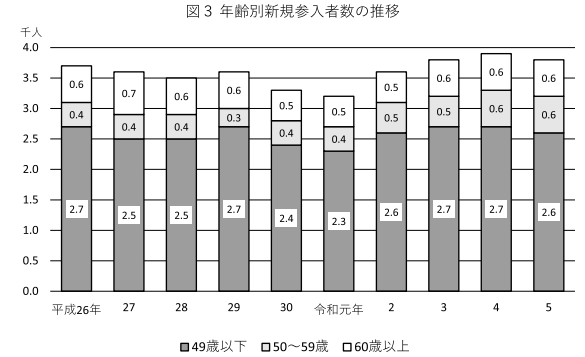

図4 酪農分野における年代別新規参入者数の推移

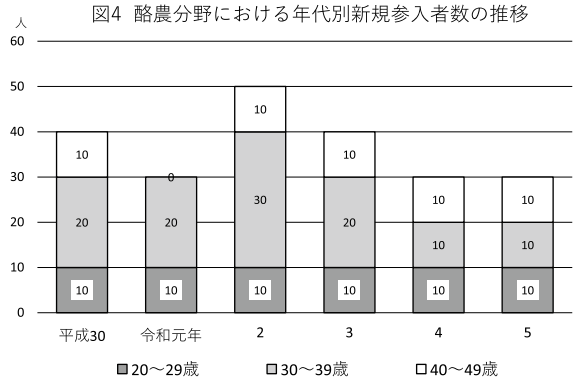

表５　部門別新規参入者数（抜粋）

単位：人

	稲作	畑作	露地野菜作	施設野菜作	果樹作	酪農	肉用牛	養豚	養鶏
令和4年	530	220	1370	640	700	30	90	0	10
5	450	300	1300	620	820	30	60	0	10
増減率（%）	△ 15.1	36.4	△ 5.1	△ 3.1	17.1	0.0	△ 33.3	0.0	0.0
構成比（%）									
令和4年	13.7	5.7	35.4	16.5	18.1	0.8	2.3	0.0	0.3
5	11.7	7.8	33.9	16.2	21.4	0.8	1.6	0.0	0.3